

二五二六番

待つらむに 至らば妹が 嬉しみと 笑まむ姿を
行きてはや見む

二五二七番

誰そこの 我がやど来呼ぶ たらちねの 母にこ
ろはえ 物思ふ我を

二五二八番

さ寝ぬ夜は 千夜もありとも 我が背子が 思ひ
悔ゆべき 心は持たじ

二五二九番

家人は 道もしみみに 通へども 我が待つ妹が
使ひ来ぬかも